

夢のつばさプロジェクト  
2019年春の交流会 学生報告書

【実施日】2019年3月17日(日)

【開催地】宮城県仙台市：太白区中央市民センター

【参加者】子ども：25名（小学生14名、中学生8名、高校生3名）

学生スタッフ・OB/OG（社会人を含む）：26名、社会人スタッフ：2名、保護者：4名

◆2019年春の交流会について

---

夢のつばさプロジェクトの春の交流会は今回で7回目の開催となりました。冬キャンプからあつという間に時は過ぎ、子どもたちはもうすぐ新学期を迎えます。特に今年は小学校・中学校を卒業する子どもたちが多い年です。

そこで今回の春の交流会は「新しい環境を迎える子どもたちが交流会に来て安心感を得て、新学期も頑張ろうと感じられるようにすること」を目標に企画いたしました。

今回は太白区中央市民センターにて午前中にアイスブレイクを、午後は未来の自分に手紙を書く企画を行いました。企画後は自由時間を例年より多く設けました。自由時間の途中には、小学校・中学校を卒業する子どもたちの表彰式を行いました。

また、企画を行っている間には、仙台駅近くの仙台市生涯学習支援センターにて学生数名と社会人スタッフ・保護者の方による懇談会も行われました。以下に詳細をご報告いたします。

◆タイムスケジュール・詳細

---

時間	子どもたちの動き	保護者会の動き
10:20	子どもたち 仙台駅集合	
10:30	仙台駅 発	
10:40		
11:00	太白区中央市民センター 着	10:45～13:15
11:15	アイスブレイク「名前でビンゴ」 …①	保護者懇談会 …④
12:15	昼食	
13:00	手紙企画 …②	
13:45	自由時間 …③	
14:35	表彰式・記念撮影	
14:45	自由時間	
15:50	太白区中央市民センター 発	
16:20	仙台駅 着	
16:30	解散	

### ①アイスブレイク「名前でビンゴ」

午前中は「名前でビンゴ」というアイスブレイクを行いました。まず初めに5×5のマスが書かれた紙が配られ、マスの中にお互い名前を書き合いました。

25マス埋めるため「書いて！」と学年や性別関係なく声を掛け合って、楽しんでマス目を埋めていました。その後呼ばれた名前を塗りつぶし、誰が早くビンゴになるかを競いました。1番にビンゴになったのは小学生の男の子でした。学生も子どもたちも次々とビンゴになり、15人ビンゴが出た時点でゲームは



終了しました。ビンゴになった人には景品が渡されました。それは夢のつばさプロジェクトの学生が描いた特製ポストカードで、子どもたちにも大好評でした。

### ②手紙企画

昼食後、センター内の創作室にて手紙を書く企画を行いました。来年3月の自分に向けて「〇〇に挑戦する！」などと手紙を書き、目標に向かって充実した1年を過ごしてもらえることを目指したものです。

目標を立てる前に、1年間を振り返って「楽しかったこと・大変だったこと・できるようになったこと」などを自由に組んだグループで話しながら書きました。子どもたちと話した内容には、過去のキャンプで話していたこともあれば今まで聞いたことがないことまであり、いつも以上に子どもたちの日常に触れることができたと感じました。その後、来年の自分に宣言するように各自手紙を書きました。一生懸命黙々と書く子もいれば、目標を語りながら書く子もいました。



手紙を開けるのは2020年春の交流会を予定しており、目標に向かってこれから頑張ることをみんなで確かめて手紙の企画を終えました。

### ③自由時間

手紙企画後、体育館へ移動して自由時間としました。例年よりも時間を多く設けていて、バレーボールを使って遊ぶ子どもたちもいればバドミントン・鬼ごっこ・バスケットボールなどで遊ぶ子どもたちもあり、それぞれが好きなことをして思いっきり体を動かして遊びました。なかにはリラックスして座っている子どもたちもいて、おしゃべりや囲碁などをしていました。

今回は途中で帰る子どもたちがいたため、その子たちが帰る前に自由時間を一度切り上げて表彰式と写真撮影を行いました。小学校・中学校の卒業を祝う表彰式では、小学校6年生6名と中学校3年生5名に学生が作ったアルバムと色紙がプレゼントされました。色紙には今回の交流会に来られなかった学生からのメッセージも書かれています。アルバムを開いて笑顔になる子や、照れくさそうに笑う子

などが見られました。全員で写真撮影をして、途中で抜ける子どもたちをみんなで見送りました。  
その後自由時間を再開し、またそれぞれ思い思いに楽しみました。



#### ④保護者懇談会

子どもたちが企画を行なっている間に、保護者の方とスタッフの交流の場として「保護者懇談会」を実施しました。

この懇談会は、日頃、夢のつばさの活動にご協力いただいている保護者の方々に、改めてわたしたちの活動の目標や想いをお伝えし、理解していただくこと、そして夢のつばさのキャンプおよびご家庭での子どもたちの様子を共有し合い、より子どもたちに寄り添った活動としていくためのヒントを得ることを目的としています。

今回は、保護者の方4名、社会人スタッフ2名、OB社会人1名、学生スタッフ2名の計9名が参加し、学生スタッフから2018年冬キャンプおよび今年度の「夢のつばさスタディ」についての報告、保護者の方からはご家庭での子どもたちの様子についてお話しいただきました。

#### ◆春の交流会を終えて

---

以前から「なかなか会えない夢のつばさのみんなと自由に過ごす時間をもっと欲しい」という要望が、子どもたちから出ていました。今回の交流会の目的にある「安心感」を目指すためには自由時間を増やすことが有効と考え、自由時間を増やしました。その結果、どの子ものびのびと過ごしている姿を見ることができました。子どもたちの成長のためにと毎回企画を考えて実施していましたが、特に1日しか会えない交流会では、自由時間を多く設けるのも良いことだと今回の交流会を通して感じました。

手紙企画は夢の応援につながるものとして行いましたが、この企画で春の交流会の目的達成に近づいたと感じる学生もいれば、難しかったと答える学生もいました。一方、安心感を得るといふ部分については達成できたと思う学生が多かったです。居場所づくりができてきたからこそ、これからは、より夢の応援にもっと力を入れて活動していきたいと考えております。

保護者の方のお話を伺う中で、子どもたちの成長を感じられることを非常に嬉しく思うと同時に、これまで子どもたちのことを常に見守り支え続けてこられた保護者の方々のご苦勞や子どもへの想いに気づかされました。わたしたちがこの活動を通して子どもたちと関わり続けることができているのは、夢のつばさへ子どもたちを送りだしてくださる保護者の方々のおかげです。わたしたちは、わたし

たちにできることをとにかく精一杯やっ払いこう、と改めて考えさせられました。

保護者の方からいただいたご意見などについては、一度スタッフ間で共有し検討した上で、その取り組みについて次回の保護者懇談会で報告する予定です。

最後に、保護者の方々や社会人スタッフの皆様をはじめ、夢のつばさの活動を温かく見守り支援してくださっている皆様に、改めて感謝申し上げます。今後とも何卒よろしくお願ひいたします。

2019年春の交流会 大学生ボランティア統括 日本女子大学1年 田中 悠乃